

# ムギ類赤かび病情報第2号

令和8年5月12日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

一部のコムギほ場で発生が多い。  
ほ場の発生状況を確認し、多発ほ場では追加防除しましょう。

## 1 ムギ類赤かび病の発生状況

5月7日～11日に県内20地点100ほ場で行った発病状況調査において、発生ほ場率は、71.0%（平年53.6%、前年31.0%）で、過去10年間と比較して3番目に高い発生状況でした。発病穂率は、0.042%（平年0.315%、前年0.003%）で、過去10年間と比較して3番目に高い発生状況でした。

本病の発生状況は、ほ場ごとにバラつきがあり、一部で発生が多いコムギほ場がありました。4月半ば以降、降雨日が多く、本病の感染に好適な環境が続いたためと推測されます。また1回目防除の適期を逃したほ場において、発生が多くなっている可能性が考えられます。

## 2 防除対策

感染拡大を防ぐため、ほ場の状況をしっかりと確認し、多発ほ場では追加防除しましょう。

なお、生育が早まり収穫が近づいているほ場もありますので、収穫前日数に注意し、散布履歴を考慮して薬剤を選定しましょう。主な防除薬剤については、4月16日発表の「令和8年度病害虫発生予察注意報第1号」の表2を参照してください。

## 3 かび毒について

本病原菌は、感染したムギの品質低下や減収の原因になるだけでなく、デオキシニバレノール（DON）やニバレノール（NIV）等のかび毒を発生させることがあります。

ムギ類の生産段階（栽培、乾燥調製、貯蔵）において、赤かび病防除、赤かび病被害粒の選別等により、かび毒汚染の防止、低減を図ることが重要です。このため、刈り遅れがないよう適期に収穫しましょう。また、ほ場の発生状況を確認し、注意して収穫してください。

詳しくは、農林水産省が公開している「麦類のデオキシニバレノール、ニバレノール汚染の予防及び低減のための指針（令和5年3月14日公表）（アドレス：[https://www.maff.go.jp/j/syouan/seisaku/risk\\_analysis/priority/kabidoku/mugi\\_kabi\\_sisin.html](https://www.maff.go.jp/j/syouan/seisaku/risk_analysis/priority/kabidoku/mugi_kabi_sisin.html)）」を参考としてください。